

MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2025.12.20

第 1181 回放送分『肺高血圧症』3回目

ゲスト：窪田 佳代子ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「肺高血圧症」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 窪田 佳代子（くぼた かよこ）ドクターです。

窪田さん、よろしくお願ひいたします。

窪田佳代子Dr.

よろしくお願ひいたします。

二見いすず

先週は、肺高血圧症の5つの原因についてお話しいただきました。

5つのうち2つの原因だと、難病に認定されるということでした。

その一つが、肺動脈自体に原因があるもので、

これは女性に多く、最近は70歳以上の方に多く診断されているということでした。

窪田佳代子Dr.

はい。肺動脈自体に原因があるものを

専門的には「肺動脈性肺高血圧症」、PAHともいいます。

二見いすず

肺動脈性肺高血圧症ですね。

窪田佳代子Dr.

1週目でもお伝えしたとおり、心臓から肺に血液を送る血管を肺動脈といいますが、

この肺動脈が狭くなり、通りにくくなることで病気になります。

二見いすず

肺動脈が狭くなる理由は、どういったものがあるのでしょうか？

窪田佳代子Dr.

いろいろありますが、日本人に多い原因を大きく4つあげたいと思います。

1つ目は膠原病の合併症として、肺動脈に炎症や線維化がおきるものです。

膠原病の患者さん全員というわけではなく、7～10%くらいの方にあてはまります。

2つ目は心臓の壁に穴が空いているような、生まれつきの病気をもっている方におきるもので、これも全員ではなく5%くらいの方にあてはまります。

3つ目は肝臓疾患の方ですが、合併されるのはごくわずかといわれています。

でも、このような病気をもともとお持ちの方は、経過中に肺高血圧症をおこさないか、少し注意する必要があります。

そして4つ目は原因が分からない方で、特発性とよばれています。

二見いすゞ

治療はどのようなことをするのでしょうか？

窪田佳代子Dr.

PAH 治療薬と呼ばれる内服や注射剤、吸入薬で治療します。

ただしどこでも治せるというものではなく、原因の見極めが難しいですし病状に応じた治療薬を選ぶ必要があります。

鹿児島県内では大学病院が唯一の専門施設になります。

二見いすゞ

先週、そもそも肺高血圧症と診断されるには、
右心カテーテル検査が必要とのことでしたが、
これはどのような検査なのでしょうか？

窪田佳代子Dr.

カテーテルといわれる細い管を、血管の中を通して肺動脈まで到達させ、実際の血圧を測定する検査です。
これ以外に肺高血圧症と診断を確定させる方法はありません。

局所麻酔で1時間ほどで済みますが、入院しての検査になります。

二見いすゞ

分かりました。今日は、肺高血圧症の原因の中でも
肺動脈自体に原因がある肺動脈性肺高血圧症、PAHについて
鹿児島県医師会 窪田 佳代子ドクターに教えていただきました。
窪田さん、ありがとうございました。

窪田佳代子Dr.

ありがとうございました。